

「落花生」生育情報（第1報）

～ 基本技術を励行して収量増加！ ～

平成29年7月19日

千葉県農林水産部

生産振興課

※本資料は、落花生生産者へ落花生の生育を情報提供するものです。
調査時点での生育状況をまとめたものであり、本年の収量を保証するものではありません。

1 生育状況

本年は、は種時期の5月下旬から6月上旬は、平年と比較して、気温は平年並から高く、降水量は平年並から少なくなりました。また、梅雨入りは、平年より1日早い6月7日頃で、これまでの降水量は少ない状況となっています。

調査ほでは、は種日から開花期までの日数は平年並みで、7月10日までの生育は順調に推移しています。

表1 作況調査成績（7月10日調査）※対比は日数、又は平年比

品種名	年次	は種日	開花期	最長分枝長 (cm)	地上部乾物重 (g/m ²)
千葉半立	本年	5月29日	7月8日	15.2	82.7
	平年	5月25日	7月5日	14.9	77.8
	対比	4日遅い	3日遅い	102%	106%
ナカテユタカ	本年	5月29日	6月29日	16.4	109.3
	平年	5月29日	7月1日	14.4	87.9
	対比	同日	2日早い	114%	124%
おおまさり	本年	5月24日	7月1日	24.8	106.6
	平年	5月29日	7月4日	20.8	70.2
	対比	5日早い	3日早い	119%	152%

* 本年値は、各品種3か所の調査結果の平均値。「千葉半立」は印旛・香取・山武地区、「ナカテユタカ」は海匝・長生・君津地区、「おおまさり」は千葉・印旛・君津地区。

* 平年値は、平成22年から28年（過去7年間）の調査データから最大・最小を除く平均。

* 対比はラウンド処理をしているため、小数点以下が合わない場合がある。

表2 （参考）落花生研究室（八街市）の作況（本年の値、7月10日調査）

播種	品種名	は種日	開花期	最長分枝長 (cm)	地上部乾物重 (g/m ²)
標播	千葉半立	5月19日	6月28日	24.0	165.2
	ナカテユタカ	5月19日	6月25日	20.0	148.7
	おおまさり	5月19日	6月25日	33.0	102.5
晩播	千葉半立	6月9日	7月14日	11.5	26.6
	ナカテユタカ	6月9日	7月12日	11.1	27.8
	おおまさり	6月9日	7月12日	14.4	23.3

* 落花生研究室の3品種の栽植密度は、「千葉半立」、「ナカテユタカ」は5,128株/10a、「おおまさり」は2,564株/10a

2 これからの管理のポイント

(1) かん水

- 降雨が無い日が続く場合は、収量を低下させないため、

「十分なかん水」を心がけましょう

かん水の目安：週1回とし、1回のかん水量は30ミリ以上

- 7月下旬～8月上中旬は、落花生の子房柄が伸長して地中で莢ができ、莢実が肥大する時期に当たります。
- この時期に干ばつ害を受けると
 - ・ 空莢や未熟粒が発生し、収量が大きく減少します。
 - ・ 採種する場合は、幼芽褐変症が発生しやすくなり、種子に発芽障害が生じます。
- 特にナカテユタカは干ばつ害を受けやすいので、早めにかん水します。

(2) 中耕・培土と石灰施用

- 中耕・培土を行うと、子房柄が地中に侵入しやすくなります。開花期に実施しましょう。
- 石灰施用は莢実の充実を促します。培土時に合わせて施用しましょう。

施用量の目安：苦土石灰（または消石灰）40～60kg/10a

3 病害虫の早期発見・早期防除を徹底しよう！

（農薬の使用法は必ずラベルを確認してください）

「茎腐病」 茎の地ぎわ部が腐り、地上部がしおれ、やがて枯死します。発生が認められたときは、ほ場には**トップジンM水和剤（平成27年11月適用拡大）**を散布し、被害株はすぐに抜き取り、表土と一緒に圃場から持ち出し処分しましょう。

**茎腐病への
適用内容**

希釈倍率：1500倍、使用液量100～300L/10a、
使用時期：収穫7日前まで、使用回数：4回以内

「白絹病」 高温・多湿条件下で発生しやすく、地ぎわ部が侵され白い菌糸が密生し、やがて発育不良となり、枯死します。例年発病するほ場では、**フロンサイド粉剤**を株元に散布しましょう。発病した場合は、被害株をすぐに抜き取り、表土と一緒に圃場から持ち出します。

「褐斑病」 葉に円形の斑点ができる病気で、病状が進行すると落葉します。本病は発生初期の薬剤防除効果が高いため、発生が見られたら早期に**トップジンM水和剤、ベンレート水和剤**等の薬剤を散布しましょう。

**白絹病・茎腐病は、連作を避け、他作物と輪作して、
被害の軽減に努めましょう！**